

被災地域の交流拠点 施設について

皆様からの温かいご支援に
心より感謝申し上げます



令和4年11月

宮城県

御 挨拶

2011年3月11日、東日本大震災は多くの尊い生命を奪い、住み慣れたふるさとのまちを破壊しました。

県民が不安に打ちひしがれている中で、兵庫県の皆さまからは、心温まる義援金を賜りましたほか、発災直後から、多くの方々に宮城県へ足を運んでいただき、様々な場面での御支援や、阪神・淡路大震災の御経験・知見に基づく御助言などを賜りました。

震災から11年が経過し、インフラ整備などのハード事業は概ね完了いたしました。一方で、被災された方の心のケアやコミュニティ再生などにおいては、それぞれの状況に応じたきめ細かい対応が引き続き必要となっておりますことから、県政運営の指針である「新・宮城の将来ビジョン」の基本方向の一つに「被災地の復興完了に向けたきめ細かなサポート」を掲げ、残された課題の解決に全力で取り組んでいくこととしております。

今般、貴県からいただいた義援金を財源としたハード事業が完了いたしました。

兵庫県の皆さまからの物心両面の多大なる御支援に、私たちは大きく勇気づけられ、復興の歩みを進めることができました。本当にありがとうございました。

今後とも、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

令和4年11月吉日

宮城県知事 村井 嘉浩

目 次

1. 拠点整備実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P2～P4
2. 被災地域交流拠点施設整備事業の概要について・・・・・・・・P5～P6
3. 拠点整備(ハード事業)の事例紹介
 - (ア) 地域コミュニティ拠点タイプ・・・・・・・・・・・・・・・・P7～P8
 - (イ) 複合機能拠点タイプ・・・・・・・・・・・・・・・・P9～P10
 - (ウ) 施設機能強化タイプ・・・・・・・・・・・・・・・・P11～P12
4. 交流活動活性化推進事業(ソフト事業)の事例紹介・・・・・・P13～P14

拠点施設整備実績一覧

地域コミュニティ拠点タイプ

複合機能拠点タイプ

施設機能強化タイプ



1 新浜町内会集会所
仙台市宮城野区岡田
字新浜浦通西



2 南蒲生町内会
集会所
仙台市宮城野区蒲生
字原屋敷



3 井土集会所
仙台市若林区井土
字地



4 三本塚公会堂
仙台市若林区三本塚
字権太



5 広瀬町下コミュニティ
センター
石巻市広瀬字町北



6 横川公民館
石巻市福地字町頭



7 桃浦集会所
石巻市桃浦字井戸入



8 月浦集会所
石巻市月浦字月浦



9 水浜漁村センター
石巻市雄勝町水浜字
水浜



10 萩浜集会所
石巻市萩浜字横浜山



11 不動町町内会集会所
石巻市不動町



12 荒地地区集会所
石巻市雄勝町船越字
荒



13 宗全山区集会所
石巻市桃生町太田字
万才山



14 にっこり集会所
石巻市北上町十三浜
字小田



15 羽坂コミュニティ
センター
石巻市雄勝町桑浜字
羽坂



16 中の島コミュニ
ティセンター
塩竈市中の島



17 千岩田自治会
宝千会館
気仙沼市岩月千岩田



18 古谷館自治会館
気仙沼市松崎中瀬



19 波路上自治会館
気仙沼市波路上後原



20 長崎自治会館
気仙沼市長崎



21 浦の浜自治会館
気仙沼市浦の浜

	22 前浜精養会館 気仙沼市松崎前浜		23 愛島郷北集会所 名取市愛島郷		24 愛島郷南集会所 名取市愛島笠島西小泉
	25 愛の杜集会所 名取市愛の杜		26 田高町西町内会集会所 名取市増田		27 新田中区集会所 多賀城市中央
	28 上下堤地区センター 東松島市上下堤字八幡前		29 亀岡地区センター 東松島市野蒜字亀岡		30 鳥屋崎公会堂 巨理町逢隈高屋字中原
	31 浜吉田西区公会堂 巨理町吉田字流		32 浜吉田東区公会堂 巨理町吉田字流		33 上館生活センター 巨理町字館南
	34 中央コミュニティセンター 巨理町字中町東		35 花釜区交流センター 山元町山寺北頭無		36 磯区集会所 山元町坂元字木ノ岡
	37 中浜区集会所 山元町坂元字中永窪		38 桜渡戸分館 松島町桜渡戸字土井下		39 江島集会所 女川町江島字江島
	40 竹浦地域交流センター マリンビレッジ 女川町竹浦字竹浦		41 港親義会館 南三陸町歌津字中野		42 馬場中山コミュニティセンター 南三陸町歌津字馬場
	43 小森親僖会館 南三陸町志津川字小森		44 荒砥コミュニティセンター 南三陸町志津川蒲の沢		45 大久保集会所 南三陸町志津川字大久保



46 大森文化センター
南三陸町志津川字大森



47 葦の浜コミュニティセンター
南三陸町歌津字砂浜



48 旭ヶ丘コミュニティセンター
南三陸町志津川字廻館



49 波板地域交流センター
石巻市雄勝町分浜字波板



50 玉浦西地区中集会所
岩沼市玉浦西



51 旧奥松島観光情報センター（Nマップ）
東松島市野蒜字北余景



52 大塩西集会所
東松島市大塩字大島



53 牛橋区民会館
山元町山寺字西牛橋



54 東宮浜地区交流センター
七ヶ浜町東宮浜笠岩



55 女川町温泉温浴施設ゆほっぽ
女川町女川浜字大原



56 塩竈市本町地域交流施設 旧えびや旅館
塩竈市本町



57 小原木公民館
気仙沼市唐桑町館



58 桜木南区集会所
多賀城市明月



59 高橋地区生活センター
多賀城市高橋



60 八幡公民館
多賀城市八幡



61 八幡上二集会所
多賀城市八幡字砂山



62 奥松島縄文文化センター
東松島市宮戸里



63 東名地区ふれあいセンター
東松島市新東名



64 境山公民分館
七ヶ浜町境山



65 亦楽公民分館
七ヶ浜町代ヶ崎浜字細田



66 袖浜生活センター
南三陸町志津川字袖浜



67 平磯生活センター
南三陸町志津川字袖浜



68 寺浜生活センター
南三陸町戸倉字寺浜



69 林生活センター
南三陸町志津川字林

被災地域交流拠点施設 整備事業の概要

事業目的

東日本大震災により甚大な被害を受けた地域においては、住民交流拠点施設となる集会所等が津波により流失したり、修繕を要したりする事例が見られました。

本事業は、拠点施設の整備(新築・改築・改修)を行うとともに、同施設を活用した住民活動を支援し、地域コミュニティの再構築、住民主体の地域活動の活性化及び地域防災力の向上に寄与するものです。

事業財源となった義援金について

本事業の財源は、阪神・淡路大震災の被災地である兵庫県の皆様からの義援金です。

兵庫県の皆様には、東日本大震災兵庫県義援金募集委員会を通して平成23年3月16日から同年9月30日までに、2,394,684,671 円の募金をいただきました。この義援金は、同委員会にて岩手県、宮城県、福島県の被災3県の住家流失及び人的被害の状況に応じて案分することとされ、本県には1,564,413,849 円が寄附されました。

この義援金の使途として、兵庫県からは地域コミュニティの再生・形成や地域防災力を高めるための拠点整備に活用してほしいという要望がありました。これは、阪神・淡路大震災の経験から、被災者の生活復興の過程では高齢者の見守りをはじめ、住民相互の助け合い・支え合いの基盤となる地域コミュニティの再生・形成がきわめて重要であるという教訓があったためです。

本県としては、兵庫県の皆様からの御支援に感謝するとともに、被災地への思いに応えられるよう本事業を実施してきました。



兵庫県井戸知事(当時)(右)による宮城県村井知事(左)への目録及び提案書の手交の様子 [平成23年11月21日]

事業の体系及び内容

本事業は、県が被災市町に対して補助金を交付し、住民組織等が実施主体となって行う間接補助事業です。事業種別としては2つに分類されます。

- ① 被災地域交流拠点施設整備事業 (ハード事業)
- ② 被災地域交流活動活性化推進事業 (ソフト事業)

また、ハード事業は拠点整備の内容によって3タイプに分かれています。

被災地域交流拠点施設整備事業(ハード事業)

被災地域における地域コミュニティの再生・構築, 教育, 学術, 文化, 地域産業振興及び地域防災力向上等に関する各種交流活動を行う拠点施設の整備, 改築改修及び初度備品に要する経費を補助するもの。

地域コミュニティ拠点タイプ

【整備手法】 新築, 改築

【施設要件】

①集会所, ②便所(車いす対応含む)③倉庫, ④団らん室

【補助率】 10/10

【補助上限】 25,000 千円

複合機能拠点タイプ

【整備手法】 新築, 改築

【施設要件】

左記①～④に加え, 地域活動の活性化に寄与する設備

【補助率】 10/10

【補助上限】 50,000 千円

施設機能強化タイプ

【整備手法】 改修

【施設要件】

建築基準法上の検査済施設の改修であること

【補助率】 10/10

【補助上限】 10,000 千円

初度備品整備補助(全タイプ共通)

【補助要件】 各タイプの事業で施設の整備又は改築改修を行うこと

【補助率】 10/10 【補助上限】 施設の整備又は改築改修に要する経費の3%以内

<補助対象外経費> (全タイプ共通事項)

(1)既存施設の修繕, 購入, 撤去・処理等に要する経費, (2)用地購入に要する経費

(3)外構に要する経費, (4)設計に要する経費, (5)その他, 知事が不適切と認める経費

被災地域交流活動活性化推進事業(ソフト事業)

当ハード事業により整備した被災地域交流拠点施設を利用して行う, 地域コミュニティの再生・構築, 教育, 学術, 地域産業の振興及び地域防災力の向上等を目的とした住民主体の交流活動を実施するための経費を補助するもの。

【補助率】 10/10 【補助上限】 1,000 千円

【具体的な補助対象経費】

報償費/消耗品費/食糧費/燃料費/印刷製本費/使用料及び賃借料/光熱水費/委託料
通信運搬費/保険料

事業実績について

ハード事業

タイプ名	整備施設数	補助金額(千円)
地域コミュニティ拠点タイプ	48棟	1,098,030
複合機能拠点タイプ	7棟	305,810
施設機能強化タイプ	14棟	126,056
合計	69棟	1,529,896

ソフト事業

延べ利用件数	補助金額(千円)
49件	31,649

※ハード事業は整備完了

※ソフト事業は令和3年度末時点実績

地域
コミュニティ
拠点タイプ

千岩田自治会宝千会館

気仙沼市に位置する千岩田自治会宝千会館は、平成 26 年度に完成しました。震災前の会館は津波で流失し、現在の高台に新築されました。地区には 300 世帯を超える住民が暮らしており、子どもも多い地域です。会館は災害時にヘリコプターからでも会館の場所がわかるように屋根に工夫が施されているほか、非常用電源として LP ガスによる発電が可能となっています。地域の中学校と連携した防災訓練も実施しており、地域の拠点として幅広く活用されています。



位置図



施設整備(ハード事業)の概要

所在地	気仙沼市岩月千岩田66-31
設置・運営主体	千岩田自治会宝千会
契約年月日	平成26年12月10日
事業期間	平成26年12月10日～平成27年3月13日
竣工年月日	平成27年3月13日
総事業費	総事業費 54,367,993円 ・当事業補助金 25,000,000円 ・市補助金額 26,714,800円 ・実施主体負担金 2,653,193円
構造・面積	木造平屋建て 敷地面積:951.64㎡ 建物面積:226.33㎡ 延面積:226.33㎡

千岩田自治会宝千会館の活用の様子

自治会行事としては夏祭り、新年会、防災訓練が主な行事です。そのほか広場でグラウンドゴルフの練習をしたり、小学生たちが遊びに来たりするなど、幅広い世代の住民がこの会館を拠点としています。H30年度からはソフト事業の補助金も活用し、住民同士の交流が進んでいます。



夏祭りの様子



防災訓練



多くの人が集える広さ



カラオケで盛り上がります

【地域からの声】 千岩田自治会宝千会 会長 千葉 雅博 さん

この地域のシンボルとして

千岩田地区は気仙沼市の中でも住民数が多く、規模が大きい地域です。若い世代や子ども達も地域を賑やかにしてくれています。震災前の会館は津波で流されてしまい、近くの保育所を借りて総会を開いたりする程度で行事はできませんでした。現在の会館が建てられて初めて行った大きな行事は夏祭りでしたが、400人以上の人が集まってくれたのをよく覚えています。これまで行事ができなかった分、皆喜んでいました。夏祭りや新年会では補助金を使って、来てくれた人全員にお弁当を配ったりしました。そうすると行事がさらに盛り上がり、地域に一体感が出るようになりました。

この会館には、屋根の瓦の工夫をはじめ、土地も住民の厚意で畑だった場所を無償貸与してもらっており、多くの住民の思いが込められています。何かがあれば自然と皆が集まってくる場所として、この会館は地域のシンボルになっています。

感謝の気持ちで一杯

震災後、多くのボランティアの方々に支援をいただきました。中には、自治会で使っていた和太鼓を瓦礫の中から探し出し、持ち帰って修復してくれた札幌の方もいました。以後、その太鼓は札幌市で行われる「気仙沼千岩田地区太鼓祭り」で使われ、その御縁で支援をいただくこともありました。

そして何より、兵庫県の皆様からの義援金でこの会館が建てられたことに感謝の気持ちで一杯です。兵庫県の方も阪神・淡路大震災で被災し、生活の再建に向けて大変な状況にも関わらず、こうして東北の被災地に義援金を寄せてくれました。これはなかなかできない、本当に有難いことだと常々思っています。



千岩田自治会宝千会
千葉会長

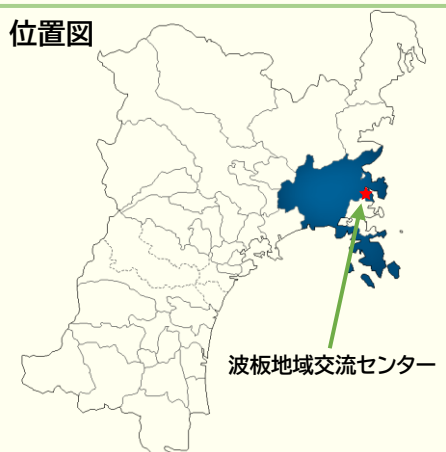
複合機能
拠点タイプ

波板地域交流センター

石巻市雄勝町に位置する波板地域交流センター(通称ナミイタ・ラボ)は、平成25年度に完成しました。この地域では震災前から人口減少や高齢化に対する課題に取り組んでいましたが、津波被害で地区外に移転した住民も多く、世帯数は21世帯から10世帯に急激に減少しました。この限界集落の未来を見据えて、センターでは地域資源を活かしたワークショップ等を積極的に行っており、地域住民と外部支援者の交流が活発に生まれる拠点となっています。



位置図



波板地域交流センター

施設整備(ハード事業)の概要

所在地	石巻市雄勝町分浜字波板140番地1
設置・運営主体	波板地区会
契約年月日	平成25年10月17日
事業期間	平成25年10月17日～平成26年3月31日
竣工年月日	平成26年3月31日
総事業費	総事業費:50,957,006円 ・当事業補助金 50,000,000円 ・市補助金 244,000円 ・実施主体負担金 713,006円
構造・面積	木造平屋建て 敷地面積:1,179㎡ 建物面積:373.86㎡ 延面積:373.86㎡

波板地域交流センターの活用の様子

多くの学生やボランティアが体験活動等を通して地域住民と交流をし、活気を与えています。



落成式では雄勝法印神楽も披露



学生たちとの交流も盛ん



センター内には工房もある



波板石を使った体験活動

【地域からの声】 波板地区会 会長 青木 甚一郎さん、古田 康祐さん・千恵さん夫妻

いろいろな人々の力を借りて (青木会長)

ここはいわゆる限界集落と呼ばれる地区なので、何とかして波板という地名が無くなるまいという気持ちで地域づくりを進めてきました。震災で多くの大切なものを失いましたが、波板には海や山、石などの豊かな地域資源があります。そのことを改めて気づかせてくれたのは、学生やボランティアなどで来てくれた人々でした。彼らは我々住民だけでは思いつかないようなアイデアでこの地区が持つ力を引き出してくれたり、若さと明るさでこの地域を未来につないでくれます。彼らが自由に集まって研究したり体験できるように「ナミイタ・ラボ」としてこのセンターは住民以外の人々にも開放しています。これまで地区に関わった人々がアポなしで来てくれることもあるし、トイレに立ち寄る営業マンもいます。だから毎日、私や誰かが必ず居るようにしています。

兵庫県の皆様の義援金のおかげで立派に建てられたこのセンターには、浴室をはじめ宿泊設備もあることから、日本全国から多くの人々が訪れてくれています。特に、震災当時から神戸の NPO 法人「まち・コミュニケーション」にはお世話になりました。その御縁でセンターの落成について兵庫県へ直接お礼にも伺いました。これまで関わってくれた皆様に感謝し、未来に向けて進んでいきます。

波板の魅力 (古田さん夫妻)

2011 年の秋から波板にボランティアで来ていて、青木会長にもお世話になっていましたが、この春、夫婦で波板に移住しました。私たちがこの地区の 11 世帯目となりました。移住したきっかけは、このセンターの存在です。ここに来ると必ず開いていて青木会長や地域の皆さんが温かく迎えてくれます。また、ナミイタ・ラボの名にふさわしい充実した環境が創作意欲を刺激します。波板石を使った「ナミイタ君」グッズもここで製作していますし、ここを拠点に音楽活動もしています。この地域の魅力を多くの人々に発信し、波板の未来を明るく照らしていきたいと思ひます。



施設機能
強化タイプ

林生活センター

南三陸町に位置する林生活センターは、令和3年度に改修されました。センターは津波の被害は免れましたが、地区沿岸部の住民は津波被害を受けました。住民が集まって辛い出来事を話す場としてセンターは使われてきましたが、老朽化やトイレの使いづらさ、大きな段差があることから積極的な交流活動ができずにいました。改修によりバリアフリー化すると共に、窓を二重サッシにすることで原子力発電所事故発生時にも一時避難場所として活用できるようになりました。



位置図



林生活センター

施設整備(ハード事業)の概要

所在地	南三陸町志津川字林87番地1
設置・運営主体	林行政区
契約年月日	令和3年12月22日
事業期間	令和3年12月22日～令和4年3月31日
竣工年月日	令和4年3月15日
総事業費	総事業費 10,000,000円 ・当事業補助金 10,000,000円
構造・面積	木造平屋建て 敷地面積:633.91㎡ 建物面積:219.44㎡ 延面積:219.44㎡

林生活センターの改修の様子



玄関の外側と内側にスロープを設置しました。

トイレは水洗となり、広くなりました。

林生活センターの活用の様子



【地域からの声】（林行政区 区長 小畑 政敏 さん）

安心して使えるセンターに

林生活センターは相当な築年数となっており、段差はもちろん、玄関に大きな穴が開いていたりして安心して使える場所ではありませんでした。トイレは汲み取り式だったので、用を足すことに抵抗を感じてあまり長居しないようにする方も多かったです。みんなでお茶を飲んだりしながら話をし、そういった不便を何も気にせず震災の傷を癒す場にしたいと考えていました。

今回、兵庫県の皆様の義援金のおかげでセンターを改修することができて、地域の活動は以前よりも大いに活気が増しました。トイレは水洗化し、段差もバリアフリーとなり、高齢者はもちろん車いすの方も気軽にセンターを利用していています。改修後初めて行った卓球大会では他の地区の住民も混ざって楽しんでおり、災害時の地区同士の助け合いにもつながるものと期待しています。以前はカビが生えやすかった備蓄倉庫も、窓の改修により改善され、避難所としても安心して使うことができる場所となっています。

兵庫県への感謝の思い

私自身、震災当時は消防職員として災害の対応に当たっていました。同僚も10名亡くし、職員全員が着の身着のまま対応にあたっていました。そのような中で、発災から数日後に兵庫県三田市の消防職員が応援に駆けつけてくれました。我々は活動着をはじめ、ほとんどの消防用活動資材が津波で流失していたのですが、その状況を見て三田市の消防職員が活動着や資材を置いて行ってくれたのです。その後も毎年彼らは資材を贈って応援してくれていて、今なお交流が続いています。

そんな背景もあり、このセンターの修繕でも兵庫県の皆さんに多大なる支援をいただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。震災の教訓を伝えることなどを通して、兵庫県の皆さんにも恩返しができると思います。



被災地域
交流活動
活性化
推進事業

中浜区集会所

山元町に位置する中浜区集会所は、平成29年度に被災地域交流拠点施設整備事業(地域コミュニティ拠点タイプ)で建設されました(本誌表紙写真)。震災前の中浜生活センターは、海沿いの震災遺構中浜小学校付近に建っていたため、津波により流失。内陸部に新築されました。

ここでは、中浜区集会所の被災地域交流活動活性化推進事業(ソフト事業)を活用している様子を中心に紹介します。



敬老祝いの様子

位置図



施設整備(ハード事業)の概要

所在地	山元町坂元字中永窪36-31
設置・運営主体	中浜区会
契約年月日	平成29年11月15日
事業期間	平成29年11月15日～平成30年3月30日
竣工年月日	平成30年3月30日
総事業費	総事業費 18,865,444円 ・当事業補助金 18,796,952円 ・実施主体負担金 68,492円
構造・面積	木造平屋建て 敷地面積:630.05㎡ 建物面積:114.27㎡ 延面積:114.27㎡

中浜区集会所の活用の様子

平成30年度からソフト事業を活用しており、夏祭りやクリスマス会など幅広い年代の住民が交流できるイベントが実施されています。県としては、行事に必要な消耗品費や食糧費も補助対象経費とし、補助金の交付を通して交流活動を支援してきました。



夏祭りのピングオ大会



台所で炊き出し



秋祭りでの射的



集会所は住民の拠りどころ

【地域からの声】中浜区 区長 島田 敏光 さん

“拠りどころ”の存在が地域をひとつに

中浜区の住民の間には、被災状況に差がありました。住宅流失を免れた高台の住民と、大きな被害を受けた沿岸の住民の間には壁が生まれ、地域活動は停滞し、自宅から出てこなくなる住民もいました。一方、仮設住宅団地にある集会所では、いつも必ず誰かがいて話をしているのを見て、地域の拠りどころとなる施設の大切さを感じました。

兵庫県の義援金を基に集会所が建てられることになり、若い世代を中心に地域を盛り上げる気運ができました。上棟式にも住民が集まって餅まきを行うなど、完成への期待が大きかったです。完成後は地域の行事に大いに活用してきました。地域で何かするにしても、自然とここに集まって話し合い、活動が始まっていく、大事な拠りどころになっています。震災後に中浜区から離れてしまった人も、夏祭りに顔を出してくれるようになり、地域がひとつにまとまったように思います。

「ありがとう」を伝えたい

集会所の建設はもちろんですが、地域行事の開催に必要な経費についても補助金で支援をいただきました。被災した住民も多く、中浜区会の区費だけでは夏祭りなどの行事は実施できなかったと思います。施設のみならず、行事活動にも補助金を活用できたからこそ、地域がここまで賑やかなものになりました。

義援金を寄せてくださった兵庫県の皆様には、言葉にならないほどの「ありがとう」の気持ちでいっぱいです。この誌面を通して、おかげさまで中浜区が地域の皆で元気に活動をしていることを、兵庫県の多くの皆様にお伝えできれば幸いです。



中浜区 島田区長

発 行

宮城県復興・危機管理部
復興支援・伝承課